

花で狛江の街に潤いを
こまえくぼで花植え

花で街に潤いを一狛江市市民活動支援センター（こまえくぼ1234）で9月17日缶に福祉施設の利用者などがパンジーなどの苗をプランターに植えた。

「力を合わせて狛江の街を花で盛り上げよう」と名付けられた活動は、同センターの趣旨に賛同したJAマインズ狛江地区女性部から花の苗やプランター、培養土などの提供を受け催した。この日はひかり作業所、こまえ工房、ワークインメイ、ワークひなた、多機能事業所パザパの利用者と職員ら23人が参加、JAマインズの職員と女性部の指導で45個のプランターにパンジー、ビオラ、キンギョソウの苗を1時間余りで植えた。参加者たちは「楽しかった」「花が咲くのが楽しみ」などと話していた。プランターは各施設に持ち帰って世話をし、開花などに合わせて狛江市内の郵便局、JAなどに



花の苗を植える参加者

平和への祈り新たに
リモートで平和フェスタ

2021こまえ平和フェスタ（こまえ平和フェスタ実行委員会主催、狛江市、狛江市教育委員会など後援）が9月12日回（オンライン）で開催され、450件のアクセスがあった。

松原俊雄市長、谷田部一之市議会議長、大熊啓実行委員長の挨拶に続いてNG



狛江市平和都市宣言朗読劇を同時配信

ピースボート共同代表の川崎哲さんの講演「核兵器はなくせる？ 私たちにできること」、市内在住の岩瀬瑞穂さんの戦争体験「朝鮮半島、夜の逃避行」、大学生荒木恵美子さんの話「五輪と平和」、アニメ映画「トビウオのぼうやは病気で」上映、市の歌「水と緑のまち」リモート合唱などが配信された。プログラムの多くは事前収録だったが、狛江市平和都市宣言朗読劇は会場

で実演して同時配信した。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を断念、過去の記録などをホームページやYouTubeで流した。

大熊さんは「リモート合唱には例年より多い約100人が参加し、新たな広がりがありました。また、オンライン開催によって市外の人や遠方に住んでいる元市民も視聴でき、狛江を知り、懐かしんでもらえるなど、手応えを感じました」と話していた。

このほか、中央公民館のショーケースでは狛江第三小学校6年生の同実行委員による平和学習の感想文、核兵器禁止条約と原爆写真のほか、西河原公民館ギャラリーでは、公募による川柳・俳句・絵手紙、フリースクールKOPPIEの貼り絵の展示に加え、広島「黒い雨」を長年研究してきた市内在住の気象学者増田善信さんの研究活動が初めて展示され関心を集めた。

日本の伝統美伝える
創作人形30点展示

日本の伝統美を多くの



まち

人に知ってほしいと、狛江市芸術協会事務局

長の平澤達彦さん（88）が12日（月）～17日（土）に和紙で制作した日本舞踊や花魁などの人形30点を泉の森会館で展示する。

平澤さんは、幼い頃から和服に接する機会が多く、その美しさに触れた。定年後に本を参考に和紙人形を作り始め、自分で工夫しながら改良を重ね、平成10年に狛江市芸術協会の「市民創作展」に人形3点を出品した。この時、同協会会長を務めていた日本舞踊宝永流家元の永崎和江さん（故人）に出会って日本舞踊の発表会などを鑑賞するようになり、日本舞踊の仕草の美しさや衣装のすばらしさに感動、創作にさらに力を注ぐようになったという。その後、協会に入会し事務局

長として市民創作展の裏方を支える傍ら、人形の創作に励み、これまでに約120点を作った。米寿を迎えたのを機に、多くの人に作品を見てもらうことにした。

人形はいずれも高さ約20cmで、日本舞踊22点、和姿6点、まつり2点を展示するほか、作り方の説明図、人形のパーツや小物なども展示、会場で質問にも答える。時間は午前10時（12日は11時）～午後5時（17日は4時）。

問い合わせ☎090-8312-6744平澤さん。



Shop & Service Guide

いらっしやいませ

谷田部米店

狛江三叉路にある谷田部米店（狛江食糧販売企業組合）は「安心安全の美味しいお米」をモットーに、常時10種類以上のブランド米を提供する米穀専門店。

コシヒカリ、あきたこまち、つや姫、ひとめぼれなどの玄米を温度管理に細心の注意を払って保管し、注

文に応じて精米して納品する。8月下旬から10月にかけては、新潟県をはじめ九州、関東、東北などの米どころから新米が次々と入荷する。

創業107年を数える老舗で、大正3年に創業者の谷田部平蔵さん（故人）が米の小売りと精米に加え、味

おいしいお米を提供し107年
定温保存した玄米を毎日精米



精米機が置かれた倉庫と谷田部さん

☎3489-0851 東和泉1-6-7 営業時間＝午前8時～午後6時。日曜日・祝日休み

郵政創業150年記念の絵手紙展
全国から431点、市内7郵便局で15日まで

郵政創業150年を記念した絵手紙展が市内7つの郵便局で開かれている。全国各地の郵便局で記念イベントが催されたが、絵手紙発祥の地にふさわしい事業を、と市内各局が検討し、狛江市の共催、「絵手紙発祥の地—狛江」実行委員会の協力で今回の展示が実現した。

8月いっぱい募集したところ、北海道から九州まで全国各地の4歳から90代

までの愛好家から431点の作品が寄せられた。作品には、郵便事業のシンボルとも言える赤いポストをはじめ、郵便の父といわれる前島密を描いた1円切手などの絵に添えて、日頃の配達への感謝の言葉が記され、郵便局の社員たちを感激させた。絵手紙のほかにも、戦前から戦後にかけての古い切手を使い、「祝郵政創業150年」「切手の歴



狛江郵便局の絵手紙展示

史は我が家の歴史」と記した作品も寄せられた。応募された全作品は、赤いポストや郵便車などを描いた台紙に40枚から60枚を貼って9月15日（日）から各局のロビーなどに飾られて

寿司店などに向けては、精米時に新米と古米をブレンドして同じ固さや味になるよう調整する。また、胚芽米や無洗米なども精米方法を細かく変えて顧客の注文に対応している。

精米時に出る米ぬかを市内の農家に肥料用に販売するほか、ぬか漬け用に売っている。また、店の近くにコイン精米機も設置、秋になると利用客が増えるという。年末にはのし餅、鏡餅を販売する。

同店は震災の時などに炊き出し用の米を提供する災害時米提供協力店になっており、平成23年の東日本大震災の時は米を買い求める客が殺到したという。

最近では多くの生産地で農薬を減らす取り組みがされており、消費者の人気が高まっているという。谷田部さんは「秋はお米の味わいが深くなる季節。精米したばかりの香り高いおいしいお米を味わってください。5kg以上なら配達もしているので利用を」と話している。

ひらがれ
絵手紙の輪

いる。また、狛江郵便局では最も多い160枚余りを西側入口のコーナーに展示している。展示は15日（日）ま

での午前9時～午後5時（狛江郵便局は4時まで）。また、11月29日（日）から12月1日（火）には狛江市役所に全作品を展示する。

問い合わせは☎3488-4242狛江郵便局総務部。

こまえ
そだち



サツマイモ

秋に旬を迎えるサツマイモは、中米原産で、江戸時代初めに中国を経て日本に伝わり、ききんをきっかけに幕府が普及に努めた。8月頃から収穫が始まるが、旬は10月から1月頃。2、3カ月貯蔵した方が甘味が増しておいしくなる。西日本を中心に大きさや色、形、味も違うさまざまな品種が栽培され、狛江市内の農家でも作っている。

煮物、揚げ物、スープなどの料理のほか、焼き芋をはじめとしたスイーツも人気が高い。

選ぶ時は太くてふっくらとし、重みを感じるものが良い。保存する時は、冷蔵庫を避け、新聞紙などに包んで冷暗所に置く。